

収量性に優れた春播きトウモロコシ「P1341」

「P1341」は収量性に優れた早生品種であり自給飼料増産につながる

背景・目的

- ・ 県内の飼料用トウモロコシの作付面積は約1,628haであり、春夏作面積の約2割を占める重要な飼料作物
- ・ 飼料用トウモロコシには多くの品種があるが、春播き（3～4月播種）の県奨励品種は「TX1334」のみ
- ・ 近年、耐倒伏性や収量性に優れた品種が育成されており、本県に適した優良品種の選定が必要

成果の内容

「P1341」の特徴

九州標準品種「SH4681」と比較すると

- ・ 耐倒伏性、耐病性が同程度で強い
- ・ 乾物収量が114%と多収



栽培特性（R3～5年） 県畜産試験場

品種名	発芽 良否 ¹⁾	初期 生育 ¹⁾	稈長 (cm)	着雌 穂高 (cm)	倒伏 ²⁾ (%)	折損 (%)	病害			乾物収量 (kg/10a)			乾物総重 の対標準 (%)
							ごま葉 枯病 ³⁾	すす 紋病 ³⁾	南方 さび病 ³⁾	乾茎 葉重	乾雌 穂重	乾物 総重	
P1341	9.0	7.8	224	100 ^a	70	1.0	1.6	1.0	2.6	857 ^a	1,001	1,857 ^a	114
SH4681 (九標) ⁴⁾	9.0	7.8	217	86 ^b	90	0.8	1.6	1.0	2.6	645 ^b	987	1,632 ^b	100

注1) 発芽良否・初期生育：1（極不良）～9（極良），病害程度：1（無または極微）～9（甚）

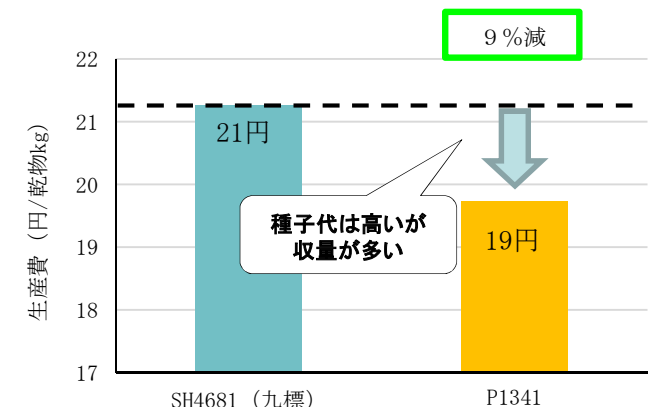
2) 倒伏（R5のデータのみ）は，倒伏角度30度以上の倒伏個体の割合

3) 縦列異符号間に有意差あり（Tukey法，P<0.05）

4) 九州地区におけるトウモロコシの標準品種

期待される効果

「P1341」の生産費 多収による生産コストの低減



○普及対象・範囲
県内の肉用牛農家，乳用牛農家

<本情報の栽培条件等(10aあたり)>

- ・ 相対熟度(RM): 115
- ・ 最適栽植本数: 6,500～7,500本
- ・ 施肥量(基肥): 牛ふん主体堆肥2,000kg, 苦土石灰100kg
化学肥料N:10, P₂O₅:20, K₂O:10
(追肥): N:5, K₂O:10(5～8葉期)

鹿児島県農業開発総合センター畜産試験場
企画環境飼料部草地飼料研究室
日本草地畜産種子協会

(飼料作物等高能力新品種選定調査事業)(R06)